

# 愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2024年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	情報機器の活用に関する理論と方法 (中・高)		
担当者(Instructors)	平田 康訓	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

## ■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

情報通信技術 (ICT) を効果的に活用した学習指導や校務の推進の在り方並びに生徒に情報活用能力 (情報モラルを含む) を育成するための指導法に関する基礎的な知識・技術を習得することを目的とする。具体的には情報活用能力を育成する意義やICTの効果的な活用、授業設計にかかわる考え方などを学ぶ。

## ■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	毎回、授業の2/3は、教育の情報化に関する国の施策やICT環境の整備について講義を行い、残りの1/3は、持参するノートパソコンを使って演習を行う。また、12回以降の授業では、グループで模擬授業を作り相互評価を行う演習形式で授業を進める。

## ■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	子どもたちに育みたい資質・能力	文部科学省が定義する情報教育の目標について学ぶとともに、子どもたちに育みたい資質・能力について考える。	<input type="checkbox"/>
第2回	現代社会におけるICTの役割	現代社会におけるICTの役割について学ぶとともに、視聴覚メディアやコンピュータがどのように教育に導入されたか歴史をたどる。	<input type="checkbox"/>
第3回	先端技術の教育への活用	先端技術を概観し、AIやビッグデータがどのように教育に活用できるか考える。	<input type="checkbox"/>
第4回	対話的な学びを深めるICTの活用 (1) ICT活用状況の調査と効果の考察	対話を促進するICTの活用について調べ、その効果について考える。	<input type="checkbox"/>
第5回	対話的な学びを深めるICTの活用 (2) 探究活動を取り入れた授業の構想	グループで探究活動を行うことを想定した授業を考える。	<input type="checkbox"/>
第6回	個別最適な学びを支えるICTの活用	個別最適な学びを支えるICTの活用について調べ、その効果について考える。	<input type="checkbox"/>
第7回	遠隔授業と学びの保障	遠隔授業の意義や関連する教材、システムについて考える。	<input type="checkbox"/>
第8回	新たな可能性をもたらすICTの活用	特別支援など、学びを支援するICTの活用について考える。	<input type="checkbox"/>
第9回	校務の情報化とデータ活用	ICTを効果的に活用した校務の推進について学ぶとともに、教育データの効果的な利用方法について考える。	<input type="checkbox"/>
第10回	情報モラル・情報セキュリティ教育	情報を扱う責任や必要なルールについて理解するとともに、情報セキュリティ技術が果たす役割とその機能について学ぶ。	<input type="checkbox"/>
第11回	プログラミング教育	プログラミング教育が目指すことについて考える。	<input type="checkbox"/>
第12回	ICTを活用した授業の構想	中学・高校の教師になったことを想定して情報活用能力を育成するための授業案を考える。	<input type="checkbox"/>
第13回	ICTを活用した授業案の作成	中学・高校の教師になったことを想定して情報活用能力を育成するための授業案を作成する。	<input type="checkbox"/>
第14回	模擬授業と相互評価	作成した授業案を使って模擬授業および相互評価を行う。	<input type="checkbox"/>
第15回	ICTを活用した模擬授業の振り返りとグループ討議	ICTを活用した学習指導を振り返り、情報活用能力の育成について、グループで討議する。	<input type="checkbox"/>

## ■授業時間外学習 (予習・復習) の内容(Preparation/review details)

(1) 学習指導要領を読む等して、情報教育が目指すべきものについて考える (2時間) (2) Wordなどのワープロソフトで文字を書いたり、表を作ったり、図を挿入したりできるようにしておく (1時間) (3) PowerPointなどのプレゼンテーションソフトで文字を書いたり、図形を描画したりできるようにしておく (1時間)

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

授業内で課すレポート・課題については、採点後に受講者にフィードバックを行う。また、模擬授業に関しては、受講生同士が相互評価を行いフィードバックを行う。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
	◆ 教職課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を活用した教育の目標を説明でき、授業に取り入れる意味を考えることができる。</li> <li>・情報通信技術の仕組みと活用方法について説明でき、学習指導の意味を考えることができる。</li> <li>・情報活用能力を育成するための授業を構想し、授業案を作成することができる。</li> </ul>

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			80%	20%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内試験：第8回の課題（40%）、第13回の課題（20%）、第15回の課題（20%）  
 その他：平常評価（20%）

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	特になし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領	
2		
3		
4		
5		